

延岡市発 “ひむかオペラ” 初の宮崎公演に挑む！

ひむかオペラ 第4弾 歌劇『ラ・ボエーム』 誰もがきくと感動する、プッチーニの最高傑作！

—— 県北が誇る市民参加型オペラ

2010年「広く延岡の皆さまにオペラの楽しさを伝えたい」そんな思いのもと、地元オペラの会や合唱団、管弦楽団等関係団体が手を取り合い、「ひむかオペラ協議会」が発足した。2012年から数年に1度、この

「ひむかオペラ協議会」が力を入れて主催しているのが、市民参加型のオペラ公演「ひむかオペラ」だ。



2017年8月上演 歌劇『魔笛』

「人口12万弱の地方都市で、市民参加によるオペラを継続して創作・上演しているのは、全国的にも大変珍しいこと」と話すのは、延岡総合文化センターの青井館長。延岡市は、市を拠点に活動するオーケストラがあり、合唱が活発。さらには、オペラ歌手も輩出している。

さまざまな条件が揃って実現した「ひむかオペラ」は、いまや県北が誇る文化芸術イベントの一つとなっている。

—— 初の宮崎公演！
オペラの醍醐味をこの機会に……

「ひむかオペラ」第4弾にして、初の宮崎公演が実現する。「延岡公演だけではもったいない」そんな声を受けたからだ。上演する演目は、今年5月に「第24回宮崎国際音楽祭」のファイナーレを飾り、多くの涙を誘ったことでも記憶に新しい、プッチーニの歌劇『ラ・ボエーム』。

歌唱とオーケストラだけでなく、演技はもちろん、舞台美術や照明、衣装など、オペラの醍醐味を十分に堪能できる公演となる。

—— いま、勢いのある演出家を迎えて

オペラの大切な要素のひとつ「演出」にもぜひ注目してほしい。『ラ・ボエーム』の演出を一手に引き受けるのが、前回の『魔笛』公演から演出を手がける飯塚励生（れお）氏（ニューヨーク出身）だ。



演出家 飯塚励生

アメリカのメトロポリタン歌劇場でも活躍し、いまや全国各地で演出を手がける気鋭の演出家が、その手腕を存分に奮う。

「励生さんは、人柄がすばらしい。みんなから愛されていますよ。一流の演出家でありながら、みんなと同じ目線に立って話してくれるんです。だからみんなで作っているという実感があふれる。とても素敵な方です」そうニコニコ微笑むのは、ひむかオペラの会の会長でミミ役の後藤紀子さん（ソプラノ）とムゼッタ役の山川有希子さん（ソプラノ）。



飯塚さんのワークショップの様子

延岡公演
8月11日(日)
開場 13:30
開演 14:00

宮崎公演
8月18日(日)
開場 13:30
開演 14:00

—— 飯塚さんとの出会い

後藤さんに、飯塚さんに演出を依頼するきっかけについて聞いてみた。

「2015年に、大分オペラフェスティバルで励生さんが演出していた『フィガロの結婚』を見て、ぜひ「ひむかオペラ」でも演出してもらいたいなと思いました。その後、飯塚さんと面識のあったソリストメンバーを経由してのラブコールとなった。「限りある予算の中で、ここにあるものを利用してどんな独創的な演出を考えてくれるのが凄い。ありがたいです」と、励生さんへの感謝の念は強い。

—— 県北出身のプロの声楽家も参加



ソリストの吉田伸昭さん（テノール）と伊藤純さん（バス）、今村雅彦さん（バリトン）は、プロの声楽家として活躍する同年代。3名とも東京藝術大学で声楽を学び、その後大学の講師にも就くなど接点が多い声楽仲間だ。吉田さんと今村さんは延岡市、伊藤さんは美郷町出身で、3人とも県北出身という共通点にも驚くが、それぞれ違う「声種」ということに運命を感じるという。

稽古の様子

◆写真左から
伊藤純さん
吉田伸昭さん
今村雅彦さん

吉田さんは、「いつか故郷でオペラ公演を一緒にやれたらいいねと話していました。夢物語だと思っていたのに……」と当時を振り返る。いろんな人との縁やタイミング、応援してくれる人たちがいたからこそ叶った夢。喜びもひとしおだ。